

# 序

佐渡は古くから「金の島」として認識され、『今昔物語集』や世阿弥の小謡集『金島書』の記述からも佐渡の金が広く知られていたことを窺うことができます。

戦国時代の末からは、鶴子銀山・新穂銀山・相川金銀山などが発見、開発され、ここから産出する金銀は上杉謙信・景勝、豊臣秀吉などへも納められました。

江戸時代には、佐渡はその経済的重要性から天領として統治され、相川金銀山を中心に 260 年余りにわたって幕府の財政を支え、さらに明治維新後も国内有数の鉱山として日本の鉱業を牽引しました。

特に近世、佐渡奉行や金銀山経営によって富を得た山師たちは、鉱山の繁栄と安全を願い寺や神社などを建立しました。現在も佐渡島内各地に残る寺社や数多い石造物はこうした人々の寄進によるものであり、金銀山の存在が宗教にも大きな影響を与えたことを示しています。

平成 18 年に新潟県と共同で文化庁へ提出した世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書「金と銀の島、佐渡 - 鉱山とその文化 - 」では、西三川砂金山・鶴子銀山・新穂銀山・相川金銀山といった主要鉱山とともに、金銀山に縁のある寺社建造物が世界遺産の構成資産候補として位置づけられましたが、これらの多くはこれまで建造物の歴史的価値を明らかにするための調査が行われておらず、佐渡市における寺院建造物の所在をはじめ、各々の建築年代、保存状況、歴史的価値を明確にする作業が急務とされてきました。

このような状況を鑑み、佐渡市では平成 19 年度から 23 年度にかけて、佐渡島内全域に存在する寺院建造物の悉皆調査を実施し、2,165 棟のリストを作成するとともに、これらの中から境内の中心的建造物である本堂および堂を対象として 125 棟の個別調査を行い、各々の建造物の評価ならびに全体の評価を行いました。

この報告書は、この寺院建造物調査についてまとめたものであり、調査成果が広く活用されることを願うとともに、ご覧いただいた方々の寺院建造物に対する理解を深めるための契機となれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり、ご協力とご指導を賜りました寺院建造物の所有者並びに管理者の皆様、また佐渡金銀山調査指導委員会委員に対し厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 8 月

佐渡市長 甲斐元也